

第6章 目標の実現に向けた重点実行計画

本市水道事業の理想像「おいしい水を 未来へつなぐ やいづの水道」を実現するために、基本目標ごとに実現施策と重点実行計画をまとめました。

6.1 【安全】基本方針：安全でおいしい水の供給

6.1.1 【安全】基本目標1：水質の適正管理

<現状と課題>

- 水質検査計画に基づき、水質検査を実施しています。
- 安心・安全な水道水の供給のためには、今後とも水質検査の実施を継続する必要があります。

<実現施策と重点実行計画>

① 水源から給水までの水質管理の徹底

- 適切な水質検査計画を毎年策定し、水質検査計画に基づき水質検査を継続して実施します。
- 鉛製給水管の水質検査を継続するとともに、使用者の方へ適切な使用方法の広報活動を行います。

② 大井川広域水道企業団からの受水の水質管理

- 大井川広域水道企業団の水質検査計画の確認及び水質検査結果を注視するとともに、日常の水質検査を行います。

6.1.2 【安全】基本目標2：水源の維持

＜現状と課題＞

- 老朽化した水源井戸は、更新計画に基づき順次更新しています。
- 水源井戸の劣化状況や水位・水量は、今後とも定期的な調査を継続する必要があります。
- 大井川地域の地下水の動向を把握する必要があります。

＜実現施策と重点実行計画＞

① 水源井戸の維持・管理

- 水源井戸の動水位・静水位及び取水量の測定を毎月行い、水源井戸の維持・管理を継続して実施します。

② 水源井戸の定期的な調査

- 水源井戸の維持・管理の結果を注視したうえで、経過年数を考慮した洗浄時期を検討し、修繕計画を作成します。

③ 大井川地域の地下水の動向把握

- 大井川地域での地下水利用団体の会議等へ参加します。

6.2 【強靱】基本方針：災害に強い水道の構築

6.2.1 【強靱】基本目標1：施設の更新

<現状と課題>

- 水道施設の経年化が進み、更新時期にある施設が存在します。
- 4つの配水場は、耐震化が完了しています。

<実現施策と重点実行計画>

① 長寿命化を踏まえた計画的な水道施設の更新

- 点検・修繕を計画的に行い、長寿命化を図り、ライフサイクルコストの縮減に努めた上で、老朽化施設は計画的に更新します。

② 計画的な水源井戸の更新

- 老朽化した水源井戸を計画的に更新します。
- 水源井戸の更新の目標値を設定します。

③ 自然災害対策

- 浸水区域にある水道施設について、更新時に対策を検討します。
- 土砂災害危険区域にある高台施設について、更新時に対策を検討します。

6.2.2 【強靱】基本目標2：管路の耐震化

<現状と課題>

- 経年化が進み、更新時期を迎えた耐震性の劣る管路があります。多くの投資を行っていた高度成長期に布設した管路が今後集中して更新時期を迎えようとしています。
- 管路の耐震化計画に基づいた更新事業を実施し、耐震管率の向上を図っていく必要があります。
- 配水管及び給水管の自然漏水が発生しています。

<実現施策と重点実行計画>

① 基幹管路の耐震化

- 管路の耐震化計画に基づき、災害時に配水被害が大きい基幹管路を優先的に耐震化します。
- 基幹管路の耐震化の目標値を設定します。

② 重要給水施設管路の耐震化

- 管路の耐震化計画に基づき、重要給水施設（救護病院・避難所・応急給水施設等）への管路を優先的に耐震化します。
- 重要給水施設管路の耐震化の目標値を設定します。

③ 給水管の耐震化

- 配水管の耐震化に併せて給水管の耐震化をします。
- 民間工事においても給水管の耐震化を強化するよう働きかけます。



(基幹管路φ600mmの更新)

6.2.3 【強靱】基本目標3：危機管理対策の強化

＜現状と課題＞

- 各種マニュアルの改訂を定期的に行うとともに、水道関係者を含めて各種マニュアルなどの理解を図っていく必要があります。
- 市民生活にとって重要なライフラインである水道施設は、災害時にその機能を維持または早期に回復することが必要となります。
- 台風や地震などの災害が発生した場合の停電対策、浸水区域にある水道施設の対策、高台施設の土砂災害対策の検討が必要です。

＜実現施策と重点実行計画＞

- ① 危機管理対策マニュアルの精査
 - 水道事業の環境変化に応じて、マニュアルを定期的に見直します。
- ② 上水道地図情報システムの活用
 - 上水道地図情報システムを導入して、災害現場での施設情報の閲覧ができる環境を整えます。
- ③ 応急給水・応急復旧体制の確保
 - 水道施設での応急給水や応急復旧用資機材を確保します。
 - 災害時を想定した防災訓練を継続して実施します。
- ④ 停電対策
 - 非常用発電機設置の検討及びレンタル発電機の手配・手続き方法を確立します。



(防災訓練：応急給水)



(防災訓練：ポンプ動作確認)

6.3 【持続】基本方針：未来につながる健全な事業経営

6.3.1 【持続】基本目標1：経営基盤の強化

＜現状と課題＞

- 給水人口、給水量の減少に伴い、給水収益の減少が見込まれます。
- 資産の適切な管理が求められています。
- ベテラン職員の人事異動や退職により、水道事業経験が浅い若手職員への技術・知識の継承が懸念されます。

＜実現施策と重点実行計画＞

① 財政計画に基づく財源確保

- 財政計画に基づき、適切な財源の確保を図ります。

② 有効率の向上

- 予防的対策として、投資計画に基づき計画的に配水管を更新します。
- 対症療法的対策として、漏水調査などにより発見された漏水箇所の修理を行っていきます。

③ 適正な資産管理

- 水道施設台帳を更新し、アセットマネジメント（資産管理）の精度向上を図ります。

④ 人材の育成と技術継承

- 業務マニュアルを整備します。また、外部・内部研修の実施や先進事業者からの技術支援の活用について検討します。
- 水道事業経験のある再任用職員から次世代職員への技術の継承を行います。

6.3.2 【持続】基本目標2：業務の効率化

<現状と課題>

- 事業量が増大する中、より質の高い業務が求められています。

<実現施策と重点実行計画>

① 業務効率化

- 近隣市町との情報交換を行い、事務の効率化を研究していきます。
- 発注業務の効率化について検討します。

② 台帳整備の効率化

- 水道施設台帳の一元化に上水道地図情報システムを活用し、効率化を図ります。

③ 個別委託発注区分の検討

- 運転管理業務などの個別委託について、より効率的な発注区分を検討します。

6.3.3 【持続】基本目標3：お客さまとのコミュニケーションの推進

<現状と課題>

- 様々な媒体を使用して広報活動を行っていますが、より多くの水道使用者へ情報提供できる工夫が必要です。
- 水道使用者のニーズを、より多く把握できる工夫が必要です。

<実現施策と重点実行計画>

① 多角的（戦略的）な広報の実施

- 施設見学会を実施します。
- 経営状況や事業の計画及び実施状況の情報公開を行います。
- 水質検査結果の公表とおいしい水のPRをホームページで行います。

② 水道使用者の意見・要望の把握

- 検討委員会、パブリックコメントを活用し、使用者の意見を広く集めます。

6.3.4 【持続】基本目標4：環境に配慮した事業の運営

＜現状と課題＞

○地球温暖化や循環型社会の形成など環境問題への対応は、次世代のために引き続き取り組むべき課題とされています。

＜実現施策と重点実行計画＞

① 省エネルギー化の推進

- 配水場施設や空調設備の高効率機器の導入を進めます。
- 電気・燃料の削減や省エネルギー機器の導入を進めます。
- 水源井戸の水量調整方法を見直し、省エネルギー化を図ります。

② 資源の有効利用の推進

- 工事で発生する建設副産物の減量化を図るとともに、再資源化することで資源の有効利用を推進します。